

研究機関：広島大学

研究課題名	細胞診の鑑別困難症例の鑑別に次世代シーケンサーを用いた遺伝子解析は有用である。
研究責任者名	広島大学病院病理診断科 教授 有廣光司
研究期間	2022年10月(許可日)～2026年3月31日
対象者	2022年7月25日以前に、広島大学病院病理診断科で細胞診検査を行った患者さん。
意義・目的	膵液細胞診、膵病変穿刺吸引細胞診、膵管擦過細胞診、胆汁細胞診、胆管擦過細胞診、子宮内膜搔爬細胞診、尿細胞診では良性とがんの間変異型性を示す良悪性の鑑別が困難な症例があります。今回、余った細胞診検体を使って遺伝子異常の解析することで良悪性の鑑別に役立つ遺伝子異常を明らかにするため、この研究を計画しました。
方法	本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は年齢、性別、細胞診判定、組織診断です。 また検査時に採取した細胞診検体の残余分を用いて、研究します。 (個人を特定可能な情報は解析に用いませぬ)
共同研究機関	該当はありません。
試料・情報の管理責任者	広島大学病院病理診断科 教授 有廣光司
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel: 082-257-5590 広島大学病院病理診断科 教授 有廣 光司